

和歌山県白浜町に所在する“京都大学瀬戸臨海実験所北浜”へ 最近の 43 ヶ月間(2007-2010 年)に打ち上がった 熱帯系の 2 種の二枚貝

久保田 信

Two tropical bivalve species washed ashore at a coast of “Kita-hama beach
of the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University”,
Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan for recent 43 months (2007-2010)

Shin Kubota

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 (〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459)

はじめに

熱帯系の 2 種の二枚貝, ミドリイガイ *Perna viridis* (Linnaeus, 1758) とクロチョウガイ *Pinctada margaritifera* (Linnaeus, 1758) が, 和歌山県白浜町沿岸で, 最近になって, 時折ではあるが漂着するようになった (久保田, 2003, 2004, 2006). 白浜半島先端に所在する京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所の北側にある通称“北浜”(砂浜部の長さは約 400 m) で, 2007 年 5 月 1 日から 2010 年 12 月 31 日までの 3 年と 7 か月間, 可能な限り (出張時や悪天候を除く) 毎日 1 回のこれら 2 種の漂着調査の結果を, 各年ごとに漂着日とその状況について記録する。

漂着記録

ミドリイガイ *Perna viridis*

- (1) 2007 年 5 月 2, 4 日; 7 月 27 日(図 1, 上);
10 月 2 日; 11 月 8 日: 10 月 2 日は半殻
で, 残りは 1 個体ずつで 10 月 2 日と 11
月 8 日は軟体部が残存.
(2) 2008 年 3 月 12 日: 半殻.
(3) 2009 年 11 月 20 日: 半殻.

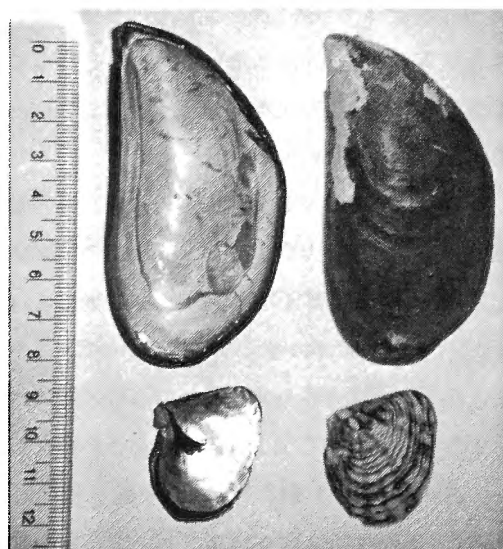


図 1. 2007 年に北浜に漂着した 1 個体ずつのミドリイガイ (上) とクロチョウガイ (下).

クロチョウガイ *Pinctada margaritifera*

- (1) 2007年7月27日;10月7日;11月8日
(図1, 下): 1個体ずつ.
- (2) 2008年5月17, 20日;7月11, 18日:
それぞれ1個体ずつで, 5月20日の個体
は軟体部が残存.
- (3) 2009年2月22日;3月17日;10月22, 27
日: 10月22日は2個体で, 残りは1個
体ずつで, 2月22日は半殻.
- (4) 2010年3月14日;6月22日;8月11日;
12月18日: 1個体ずつだが, 6月22
日は半殻.

考察

以上のように最近の43ヶ月間で, 2010年を除いた毎年, ごく少数ではあるが, ミドリイガイ7個体が7日にわたって漂着した。これら7個体中の3個体は, 殻の片方がはずれた状態で漂着した。クロチョウガイは毎年みられ, 16個体が15日にわたって漂着した。これらのうちの2個体を除き, 他の全個体は左右の貝殻がそろって漂着した。軟体部が残存していた場合は, 2種とも1, 2個体と少数であった。

著者による白浜半島先端部(番所崎)の岩礁域でのシュノーケリング観察と干潮時の磯観察では, クロチョウガイは少数の生体が発見されたが, ミドリイガイは全くみられなかった。このことから, 潮間帯から水深数mのこの区域においては2種ともまだ稀少な存在であるといえる。

ミドリイガイは, 発見当初(田名瀬・久保田, 1996), 田辺湾では全く目立たない存在であり(久保田, 2004), 本調査区域においては, 1997–2002年の5年間の打ち上げ調査でも発見され

たことはなかった(久保田・小山, 2002a, b)。しかし, それ以降から稀に漂着が見られるようになった(久保田, 2003)。田辺湾の内奥部では, ムラサキイガイ *Mytilus galloprovincialis* Lamarck, 1819 が, 過去15年間では一時的に一度だけ湾内で壊滅した以外(久保田, 1997), 人工物に付着・群生していたが, 近年になってミドリイガイが優占的に生息する驚くべき変化が生じている(久保田, 2007, 未発表)。

瀬戸臨海実験所水族館において, ミドリイガイは2000年以降, クロチョウガイは2006年を除いた1998年以降に継続して飼育展示しており(瀬戸臨海実験所, 1999–2009), これら2種の田辺湾付近での生息がこの頃から確認されている。

昨今の地球温暖化に伴い, 和歌山県白浜町沿岸ではオニヒトデ, コブヒトデモドキ, ジンガサウニ, ツノメガニ, クロハコフグ, グンバイヒルガオなどといったような熱帯・亜熱帯系の様々な生物たちの出現が記録されており(久保田, 2006, 2008, 2009; 久保田ほか, 2007, 2010; 檜山ほか, 2009; 新稲・久保田, 2010), 前2種は水族館でも展示されているが(瀬戸臨海実験所, 1999–2009: オニヒトデは2000年以降毎年; コブヒトデモドキは2004年以降毎年), 本稿で取り扱った2種もそのような南方系の一員であり, 今後の動態に留意すべきである。

引用文献

- 檜山 嘉郎・久保田 信・田名瀬 英朋. 2009. 和歌山県白浜町で初めて発見されたグンバイヒルガオ(ヒルガオ科). *Kuroshio Biosphere*, 5: 23-25, 1 pl.
- 久保田 信. 1997. チレニアイガイ, 和歌山県田

- 辺湾で 1994 年夏期に全滅. 南紀生物, 39(1): 73-74.
- 久保田 信・小山 安生. 2002a. 番所崎, 特に“北浜”(和歌山県白浜町)へ打ち上げられた軟体動物貝殻目録生物. 南紀生物, 44(1): 69-76.
- 久保田 信・小山 安生. 2002b. 番所崎, 特に“北浜”(和歌山県白浜町)へ打ち上げられた軟体動物貝殻目録(2). 南紀生物, 44(2): 133-139.
- 久保田 信. 2003. 和歌山県白浜町臨海“北浜”に打ち上がったミドリイガイ. 本覺寺杼貝, (41): 15-17.
- 久保田 信. 2004. 緑色のイガイ類にまつわる幾つかの話題. かいななかま, 38(1): 7-10.
- 久保田 信. 2006. 「宝の海から 白浜で出会った生き物たち」. 233pp., 紀伊民報, 田辺市. 和歌山県.
- 久保田 信. 2007. 和歌山県田辺湾およびその周辺海域におけるムラサキイガイ個体群の激減とミドリイガイの増加. 南紀生物, 49(1): 81-82.
- 久保田 信・樫山 嘉郎・田名瀬 英朋. 2007. 和歌山県白浜町番所崎および京都大学瀬戸臨海実験所北浜に漂着したコブヒトデモドキ(ヒトデ綱; コブヒトデ科). 漂着物学会誌, 5: 45-46.
- 久保田 信. 2008. 和歌山県白浜町“北浜”へ 2007 年 11 月に打ち上がった稀少種クロハコフグ(ハコフグ科). 漂着物学会誌, 6: 20.
- 久保田 信. 2009. 和歌山県白浜町で発見された大型のジンガサウニ(ナガウニ科). くろしお, (28): 1-2.
- 久保田 信・樫山 嘉郎・田名瀬 英朋. 2010. 和歌山県白浜町の 3 箇所に発育したグンバイヒルガオ(ヒルガオ科)は初回の越冬できず. 南紀生物, 52(1): 61-62.
- 新稲 一仁・久保田 信. 2010. 和歌山県白浜町の潮間帯に現れたオニヒトデ. Kuroshio Biosphere, 6: 31-35, 1 pl.
- 瀬戸臨海実験所. 1999—2009. 水族館飼育生物. 瀬戸臨海実験所年報, 第 12—22 巻.
- 田名瀬 英朋・久保田 信. 1996. 和歌山県田辺湾のミドリイガイ(二枚貝綱, イガイ目). 南紀生物, 38(1): 11-12.